

# 国語(書写)

## 目次

1	国語科書写改訂のポイント	1
2	国語科書写における目標のポイント	1
3	国語科書写の内容のポイント	2
4	各学年の指導のポイント	3
5	国語科書写の指導計画作成上のポイント	7
6	指導例	8

## 1 国語科書写改訂のポイント

### 国語科の目標及び内容の構成

○ 教科の目標は、これまでと変更はなく次のとおりである。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 内容については、これまでは「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の3領域及び〔言語事項〕で構成していたが、3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めている。
- 各領域の内容を(1)の指導事項に示すとともに、これまでは指導計画の作成と内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付けている。これは、各学年の内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを重視したためであり、国語の能力を調和的に育て実生活で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら生徒主体の言語活動を活発にし、国語科の目標を確実に豊かに実現することを目指すものである。
- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることや、国語が果たす役割や特質についてまとまった知識を身に付けることとともに、実際の言語活動において有機的に働くような能力を育てることに重点を置いて構成されている。



- 書写に関する事項については、これまでは〔言語事項〕に示されていたが、平成20年版学習指導要領では、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2)に示されている。
- 書写の指導については、文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立つよう内容や指導の在り方の改善を図るとともに、身の回りの文字に関心を持ち文字を効果的に書くように指導することが求められている。

## 2 国語科書写における目標のポイント

### <教科の目標>

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 前段では、国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標であることを述べている。「適切に表現」する能力と「正確に理解する能力」とは、連続的かつ同時に機能するものであることから最初に位置付けている。

書写においては、筆順や字体・字形を正しくして、文字を適切に書く能力と正確に理解

する能力の両面の育成が求められる。つまり、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりするなど、社会生活に生きてはたらく力として育成することが大切である。

- 「伝え合う力を高める」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることである。

書写においては、文字や文、文章を書き表す際に、読み手への伝達効果を考えて書くとともに、単に手本にしたがって字体や字形練習を繰り返すだけでなく、学習集団として高め合うという学習姿勢を培うことが大切である。

- 後段では、まず、「思考力や想像力を養い言語感覚を豊かに」することを述べている。思考力や想像力とは、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力である。また、言語感覚とは、言語の使い方の、正誤・適否・美醜などについての感覚のことである。

書写においては、文字感覚、つまり、正誤・適否・字形・間隔・バランス・漢字や仮名の調和などについての感覚のことであり、文字に対する感性を養うことが大切である。また、「比較する」、「発見する」、「考える」など多様な学習活動を工夫することで、文字を正しく見る目、鑑賞する力などを養うとともに、新たな発想や思考を創造する力をはぐくむことが大切である。

- 「国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる」ことを求めているのは、我が国の歴史の中ではぐくまれてきた国語が、人間としての知的な活動や文化的な活動の中核をなし、一人一人の自己形成、社会生活の向上、文化の創造と継承などに欠かせないものであるからである。

書写においては、文字に対する関心・意欲を高め、国語を尊重する態度を育てることが大切である。



「書写」では、国語科の目標の実現を目指しながら、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2(2)アにあるように、「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。」が重要である。

### 3 国語科書写の内容のポイント

- 国語科の内容は、これまでの「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」からなる3領域構成を維持するとともに、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。
- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容は、(1)の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」、「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ 漢字に関する事項」、(2)の書写に関する事項から構成されている。



○ 書写に関する事項は、国語科の指導として漢字に関する指導や、「B書くこと」の領域の指導と密接に関連している。

小学校の指導を踏まえ、文字を書くことに関する知識・技能の育成が、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における、話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立つようにすることが大切である。また、我が国の伝統的な文字文化やこれからの社会に役立つ様々な文字文化に関する認識及びそれらに親しむ態度の育成も大切である。

## 4 各学年の指導のポイント

### (1) 各学年の書写に関する事項

第1学年	第2学年	第3学年
ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。	ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。	ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。
イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。	イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	



各学年の事項については、毛筆と硬筆による文字の書き方についての内容が併せて示されている。「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2(2)イに「硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い」とあるように、毛筆を使用する書写の指導を各学年で行うことは従前と変わらない。また、「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。」に配慮する必要がある。

### (2) 第1学年の指導のポイント

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

アは楷書に関する事項である。

- 小学校の指導を踏まえ、漢字の字体、点画、筆順等に注意し、楷書で書かれた文字の形や大きさ・配列などに関して、内容の程度について高め、正しく整った文字を書くように努める必要がある。その際、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における言語活動に役立つ書写の能力を育成していくことに配慮すること。
- 「字形を整え」ることは、小学校では主に第3学年以上で「文字の組み立て方」として、文字の概形を意識したり、部首とその他の部分の形、大きさ、位置を比較することで字形を整える方法を学習している。

中学校では、小学校の指導を踏まえ、それぞれの文字の特徴を理解して、字形を正し

く整えられるように指導することが大切である。

- 「文字の大きさ、配列などについて理解」することは、小学校では主に第5学年以上で「文字の大きさや配列」として、用紙全体との関係に注意しながら書く方法を学習している。

中学校では、小学校の指導を踏まえ、それぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて割り当てる際に、紙面全体に対して調和が保たれるように注意すること。この際、特に字間や行間に注意することが大切である。



これらの指導を行う際には、国語科をはじめとする各教科等の学習や生活での活用場面を見通した学習活動の工夫や、適切な教材の開発なども必要である。

イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

イは、漢字の行書の基礎的な書き方に関する事項である。

- 行書は、中学校で初めて指導する内容である。社会生活では、楷書以上に行書で書く場面が多いことから、第1学年では、楷書よりも速く書くことのできる行書の基礎的な書き方を身に付けさせるようにする。
- 「漢字の行書の基礎的な書き方」とは、直線的な点画で構成されている漢字を
  - ① 点や画の形が丸みを帯びる場合がある
  - ② 点や画の方向及び止めや払いの形が変わる場合がある
  - ③ 点や画が連続したり省略されたりする場合がある
  - ④ 筆順が変わる場合がある

といった行書の特徴を理解して書くことである。特に、点画から次の点画へ書き進めるときの気持ちのつながり（筆脈）が大切である。

行書は楷書からではなく、隷書を簡略化した結果としてできた書体である。したがって、楷書に上記4点のような特徴をもたせれば行書になるといった指導ではなく、行書の特徴を伝統的な文字文化として理解して書くように指導する。



行書の特徴を意識して書いた場合、文字の形が乱れることが多い。行書の場合の文字の形と楷書の場合の文字の形を比較検討させることで、それぞれの特徴を理解させるといった指導方法の工夫をする必要がある。

- 字形の整え方、運筆の際の筆圧のかけ方、点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。これは、点画と点画をつなげる連続線の太さの変化は微妙であるため、硬筆で書くよりも毛筆で大きく書いた方が理解しやすいためである。なお、筆圧とは、筆記具から用紙に加わる力のことである。

筆圧については、小学校第3学年で、送筆部と終筆部での筆圧の変化について学習している。また、点画のつながりについては小学校第5学年以上で、点画から次の点画へどのように運筆されるのかを学習している。

中学校では、小学校での指導を踏まえ、連続線とその前後を含めた筆圧の変化について

て考えさせるとともに、書く速さを意識して書かせることで行書の特徴を理解させる。

また、生徒自身が行書の特徴に気づき、どのようにすればこれらの特徴を生かした書き方ができるのかを考えるような、主体的な学習がなされるように配慮することも重要である。

### (3) 第2学年の指導のポイント

ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

アは、漢字の行書及びそれに調和した仮名の書き方に関する事項である。

- 行書については第1学年で基礎的な学習をしている。したがって、第2学年においては、行書の文字に書き慣れ、読みやすく速く書く能力の育成を求めている。
- 「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解」するためには、第1学年で指導している行書の特徴を踏まえる必要がある。その際、文字文化という視点から、行書に関して気が付いたことや分かったことなどについて考えたり、まとめたりする活動を取り入れることが大切である。また、毛筆の弾力性や柔軟性という特質を生かして行書の運筆を体得させることなどの工夫が必要である。
- 「読みやすく速く書くこと」は、漢字の行書とそれらに調和した仮名の書き方に慣れさせ、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における言語活動に役立たせるための重要な指導である。
- 「読みやすく」とは、読み手への伝達を意識することである。このためには、読みやすい書式を意識し、第1学年で学習した字形や大きさ、配列などに配慮することが必要である。また、漢字と仮名を調和させるため行書に調和する平仮名の学習を行うとともに、漢字を平仮名に対してやや大きく書くことで読みやすくなる点に注意すべきである。



漢字と仮名の大きさは、漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのことである。画数の多い文字ほど大きく書き、画数の少ない文字ほど小さく書くと、並べたときに読みやすい文字列になる。一般的に、仮名は漢字よりも小さく書くとよいと言われるのは、仮名が漢字よりも一字の中での構成要素が少ないことによる。(『小学校学習指導要領解説 国語編』より)

- 「速く書く」ことは、書く速度を速めることと考えられがちであるが、書く速度を速くしすぎると、文字の形が乱れ、読みにくいものになってしまう。したがって、楷書に比べて行書は書く速度が速くはなるが、それは、行書の特徴である点画の省略や筆順の変化、点画の方向や形の変化等による曲線化により全体的な時間が速くなるのであって、点画を書く速さ自体は楷書を書く速度とほぼ同じか少し速くなる程度と考えてよい。



漢字の行書に調和した仮名を書くためには、始筆の筆圧と終筆から始筆への点画のつながりや書く速さを意識する必要がある。

イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

イは、学習や生活の目的や必要に応じて書体を選んで書くことに関する事項である。

- 「目的や必要に応じて」とは、国語科をはじめとする各教科等の学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、効果的な文字の書き方を工夫することである。メモやノート、届け出の書類、願書、会議録、ポスターや掲示物、はがきや封書といった様々な書式に合わせて、適切な字形や書体、筆記具で書くことを求めている。その際、読み手を意識して書く必要がある。
- 「楷書又は行書を選んで書くこと」とは、学習や生活における様々な場面において、楷書で書いた方がよい場合と行書で書いた方がよい場合とがあることを踏まえ、習得した書体に関する知識や技能を目的や必要に応じて主体的に選択して書くことである。このとき、読み手を意識し、表現効果や伝達効果などを高めるために、毛筆や硬筆などの筆記具の選択について工夫することも大切である。

#### (4) 第3学年の指導のポイント

ア 身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。

この事項は、自分の身の回りにある多様な文字に関心をもつことと、その関心に基づきながら第2学年までの学習を踏まえて表現効果を考えながら書くことを求めている。

- 「身の回りの多様な文字に関心を持ち」とは、手書き文字だけでなく、活字やイラスト文字などの社会生活で使用されている多様な書体や字形の文字や、それらの文字の使われ方などに関心をもつことである。身の回りの多様な文字に関心をもつことで、文字を手書きすることの意義に気付かせ、併せて、文字文化に関する認識を改めて形成させるとともに、主体的な文字の使い手になるきっかけをもたせることを求めている。また、多様な文字の在り方に関心をもたせることで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養い、高等学校芸術科書道への発展性も見通している。



高等学校芸術科書道Ⅰでは、「漢字仮名交じりの書」が必修となっている。これは、中学校までの書写とのつながりを意図したものである。芸術科書道において、社会生活で使用される頻度の高い「漢字仮名交じりの書」を学習することで、書写から書道へスムーズに発展できるようにしている。

- 「効果的に文字を書く」とは、文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くことである。身の回りの多様な文字に関心を持ちながら、字形を正しく整える能力、配列などを整える能力、速く書く能力、楷書や行書を使い分ける能力、筆記具の選択について工夫する能力など、小学校からこれまで身に付けてきた書写の能力を総合的に発揮させるように指導する。第3学年は、所謂、書写学習のまとめとしての学年といえることができる。

## 5 国語科書写の指導計画作成上のポイント

### 「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2(2)

- ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- イ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。
- ウ 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。

#### (1) 中学校の書写のねらい

アは、中学校の書写がねらいとしている能力や態度について示している。

アの書写のねらいは、「文字を正しく整えて速く書くことができる」ことである。文字を正確に読みやすく書くことができるという、文字の伝達性を重視した指導が求められる。また、「速く」は、中学校における書写の中心的な学習内容となる漢字の行書及びそれに調和した仮名を書くことのねらいである。

後段の、「書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる」ためには、日常の生活においても、必要に応じて、意識的に書写の学習の成果を生かすようにする。例えば、学習ノートに記録したり掲示文などを書いたりする場合や、家庭において手紙などの通信文を書いたりする場合などに、各自が形式や内容を工夫し、書写の能力を広く生活に役立てるような態度を育てることが大切である。

#### (2) 硬筆と毛筆の関係

イは、書写の指導における毛筆の指導が、硬筆による書写の能力の基礎を養うことをねらいとしていることを明示したものである。これは、小学校の第3学年以降の毛筆による書写のねらいと同じである。このため、「硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行う」こととされている。「硬筆による書写の能力の基礎を養う」ために、毛筆による書写の指導が一層効果的に働くことが求められている。日常の筆記はほとんどが硬筆で行われている。しかし、毛筆で大きく書くことによって硬筆では見落とされがちな終筆（止め、はね、払い）の書き方や細かな点画などを具体的に理解させ、正確に認識させることができる。したがって、各学年に示された書写の授業時数に応じて、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して、適切に設定することが大切である。

#### (3) 書写の授業時間数

ウは、書写の配当時数について示している。

- 書写では、書写の指導を取り出して年間にわたって計画する場合が多い。しかし、「B 書くこと」の領域の指導や〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ウの「漢字に関する事項」の指導との関連を図り、漢字の書きの指導や記録文、案内文、詩歌の作



成や手紙を書く際に、それらの指導の一部として計画することにも配慮する必要がある。

- 中学校書写では、硬筆及び毛筆を使用する書写の指導を各学年で行うこととされているが、毛筆を使用する書写の授業時数は示されていない。しかし、「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること」とあることから、毛筆書写と硬筆書写を関連させて学習することが大切である。具体的には次のように考えることができる。

- ① 1単元を連続2単位時間とし、硬筆書写を最初の導入部分や最後のまとめの部分に位置付け、中間に硬筆と同一あるいは同じ要素の文字の毛筆書写を行う。
- ② 1単元を2単位時間とし、1時間目は毛筆書写を、2時間目は毛筆書写をする中で毛筆と同一あるいは同じ要素の文字の硬筆書写を行う。
- ③ 1単元を3単位時間とし、1、2時間目は毛筆書写を行い、3時間目は毛筆と同一あるいは同じ要素の文字の硬筆書写を行う。

#### (4) 適切な教材の選定

教材の選定に当たっては、地域の実態や生徒の発達段階を踏まえ、単元あるいは指導事項の目的達成のため、最も適切な教材を選定することが大切である。実際には、教科書教材を中心とした指導計画を作成するケースが多いと思われるが、教科書だけにとどまらず、語句や文章を広く選定し、その意味についても十分理解させ、他教科等での学習活動にも活用・発展させるよう配慮することが必要である。その際、特に、我が国の伝統や文化に対する関心や理解を深めるといった点に配慮し、学校行事や奈良の伝統文化等を視野に入れ、各校の実態に応じた教材を積極的に選定していくことが大切である。また、学習効果をより高めるためには、書写に対して興味・関心をもたせることが不可欠である。奈良の地域性を生かし、伝統産業に支えられてきた筆・墨・紙の製造工程なども紹介し、書写について親しみをもたせることも一つの方法である。

## 6 指導例

### ◆第1学年の指導例

#### 1 単元名 楷書

#### 2 単元の目標

- 楷書の点画を、正しい筆使いで書くことができる。
- 字形を整えて書くことができる。
- 文字の大きさ、筆順、配列などを理解して書くことができる。

#### 3 単元について

小学校の指導を踏まえ、漢字の字体、点画、筆順等に注意し、文字の形や大きさ、配列などに関して、内容の程度について高め、正しく整った文字を書くことのできる能力を育成する。

漢字については、画数が多く、偏と旁つくりといった左右の関係から成る文字を題材とする場合が多い。この場合、文字が大きくなることで、紙面からはみ出したり、文字同士がぶつかったりする可能性が高くなる。このようなことを避け、紙面全体の中でゆとりをもって書くために

は、文字の大きさや書くべき位置について注意する必要がある。具体的には、字間や行間に注目させることで文字の大きさや位置について留意させていきたい。

#### 4 指導について

- 楷書の基本的な点画の正しい筆使いを定着させるため、始筆や終筆等の書き方を理解して書けるようにする。
- 試書のあと自己批正させる際には、籠字<sup>かごじ</sup>※や骨書きのワークシート、竹串、ストローなどの具体物を利用させることで、自分の課題を見付けられるようにする。
- 毛筆で学んだことを、硬筆等に筆記具を替えて書くことで理解を深めさせる。  
※籠字とは、毛筆で書かれた点画の枠取りをした文字のことである。
- この単元を毛筆書写の最初の単元として設定した場合、書写の授業で守るべき規則等について3年間を見通して丁寧に指導する必要がある。

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・目的や意図に応じ、構成を考えて書こうとしている。	・字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書いている。

#### 6 単元の学習計画（全6時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を書くときの姿勢、用具の置き方と名称、筆の持ち方を正しく理解する。</li> <li>○ 正しい筆使いで基本的な点画を書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の置き方や筆の持ち方、姿勢を確認する。</li> <li>・ワークシートを用いて、基本的な点画の名称や筆使いを整理する。</li> <li>・基本的な点画を半紙に練習する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最初に、道具の点検や書く姿勢の確認を必ず行うことで、規律ある授業となるようにする。</li> <li>・視聴覚機器やワークシートなどを利用することで、基本的な点画を正しい筆使いで書く方法を分かりやすく説明する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正しい筆使いを理解し、始筆、送筆、終筆に注意して字形を整えて書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各点画の長さや方向、筆使いを確かめ、気付いたことを教科書の手本に書き入れる。</li> <li>・気付いたことについてグループで発表し、相互批正する。</li> <li>・相互批正した中から自分の課題を見つけて練習する。</li> <li>・本時の成果や感想、次時の課題をワークシートに記入する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な点画について、理解して書くことができるように指導する。</li> <li>・籠字プリント、ストロー、竹串などの補助教材を用いて練習させることで、字形や筆使いについての理解を助ける。</li> <li>・5枚程度書いた中から1枚を清書としてワークシートとともに提出させる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字の大きさ、配列に注意して整った文字を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配列については、特に、字間や行間、行と文字の中心に注意させる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に使用した補助教材を利用して練習する。</li> <li>・グループでの相互批正により、各自が新たな課題を見付け、その解決に努める。</li> <li>・本時の成果や感想、次時の課題をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5枚程度練習させ、その中の1枚についてグループで相互批正を行わせ、その際のアドバイスを自分の作品に赤ペンで記入させる。</li> <li>・5枚程度書いた中から1枚を清書としてワークシートとともに提出させる。</li> </ul>
4	<p>○ 配列と筆順に注意し、整った文字を書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆順を確かめるために教科書の手本に番号を記入する。</li> <li>・文字の中心や外形を把握するため、教科書の手本や試書に線を書き込んで比較する。</li> <li>・相互批正を通して各自が課題を見付け、課題に合ったワークシート等を利用して練習する。</li> <li>・清書作品を完成する。</li> <li>・本時の成果、自分と友達の感想、次時の課題をワークシートに記入する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>★この学習を踏まえ、学活などで七夕の短冊や学期の個人目標などを書かせてもよい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に拡大した手本をはり、中心線と外形をマジックペンで書き入れることで、字形を理解しやすくさせる。</li> <li>・字形が理解しにくい生徒には、半紙を細かく折らせたり、ワークシート（籠字、骨書き）を利用させたりする。</li> <li>・試書と清書を掲示するなどして比較させ、成果や感想を話し合わせる。</li> <li>・5枚程度書いた中から1枚を清書としてワークシートとともに提出させる。</li> </ul>
5	<p>○ 文字を整えるポイントを理解し、硬筆で書くことができる。</p> <p>○ 筆順の原則を知るとともに、整った文字を書くためには筆順が大きな役割を果たしていることを理解して書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに、文字の大きさを工夫しながら練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が理解しやすいように、視聴覚機器を用いて説明する。</li> <li>・鉛筆・シャープペンシルを用いる場合は、B程度の濃さのものを使うよう指示する。</li> <li>・マスの中心と文字の中心を合わせるように指示する。</li> <li>・筆順の原則を意識して練習させる。</li> <li>・ワークシートを提出させる。</li> </ul>
6	<p>○ 原稿用紙の使い方を理解し、整った文字で、文字の大きさや配列を考えて書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿用紙の使い方をワークシートに書き入れて理解する。</li> <li>・原稿用紙に教科書の手本を視写する。</li> <li>・自己批正する。</li> <li>・国語の作文の授業で書いた体験文を原</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視写の後に、以下の点を確認させて、赤ペンで気付いたことを書き入れさせる。</li> <li>＊整った字形か</li> <li>＊漢字や仮名の大きさが適切であるか</li> <li>＊行の中心と文字の中心がそろっているか</li> <li>＊原稿用紙の使い方が適当であるか</li> </ul>

稿用紙に清書する。	・この学習を作文や読書感想文に生かせるようアドバイスをする。
-----------	--------------------------------

○ 授業展開例（2 / 6）

生徒の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	・机上の整理と用具の点検をさせる。 ・正しい姿勢で書こうとしているか確認する。	
2 本時の目標を知る。	正しい筆使いを理解し、始筆、送筆、終筆に注意して字形を整えて書く。	
3 試書をする。	・教科書の手本を見ずに、1枚書かせる。	
4 教科書の手本に気付いたことをすべて赤ペンで書き入れる。	・各点画の長さや方向、筆使いを確かめさせ、気付いたことを教科書の手本に赤ペンで記入させる。 ※ストローや竹串等を用いて点画の長さや方向を確かめさせる方法もある。	ストロー、竹串などの補助教材
5 グループで試書を見せ合い、気付いたことを発表する。	・友達のアドバイスも教科書の手本に記入し、自らの課題を明らかにさせる。	
6 教科書の手本に記入した注意点に留意しながら練習する。	・始筆、送筆、終筆の形や筆使いに注意を払わせる。その際、筆圧の変化、穂先の動きと点画のつながりといった点にも注意させる。 ※籠字を印刷した半紙を用いて練習させる方法もある。	（籠字を印刷したワークシート）
7 成果と課題を確認する。	・練習作品の中から1枚選び試書と見比べ、成果や感想、次時に向けての課題をワークシートに記入させる。	ワークシート
8 次時の学習内容を知る。	・本時のまとめをし、次時の予告をする。	

◆第1学年の指導例

1 単元名 行書

2 単元の目標

- 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くことができる。

3 単元について

中学校では、社会生活に役立つ書写の能力を養うために、速く書く能力を育成する。そこで、楷書よりも速く書くことのできる行書の基礎的な書き方を身に付けさせるようにする。

「漢字の行書の基礎的な書き方」とは、直線的な点画で構成されている漢字を

- ① 点や画の形が丸みを帯びる場合がある
- ② 点や画の方向及び止めや払いの形が変わる場合がある
- ③ 点や画が連続したり省略されたりする場合がある
- ④ 筆順が変わる場合がある

といった行書の特徴を理解して書くことである。また、字形の整え方、運筆の際の筆圧のかけ方及び点画のつながりといった点を身に付けさせるためには、点画から次の点画へ書き進めるときの気持ちのつながり（筆脈）を理解させることも大切である。

#### 4 指導について

生徒自身が行書の特徴に気付き、どのようにすればこれらの特徴を生かした書き方ができるのかということ、主体的に考えさせることができるように指導する。さらに、行書は隷書を簡略化した結果できた書体であるので、楷書に上記3で述べた行書の特徴を生かすことで行書になるといった指導ではなく、行書の特徴を伝統的な文字文化として理解するように指導したい。

- 身の回りの行書の例を視聴覚機器を用いて示し、興味付けをする。
- ワークシートの利用やグループ学習をすることで、意欲的に取り組めるように工夫する。

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・目的や意図に応じ、構成を考えて書こうとしている。	・漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。

#### 6 単元の学習計画（全5時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	○ 楷書と行書の違いを理解する。 ・楷書と行書を比較し、ワークシートにまとめて発表する。	・視聴覚機器を使用することで、行書は楷書に比べて速く書くことができるという特徴を発見しやすくする。
2	○ 行書の筆使いを理解して書くことができる。 ・点画の連続や点画の形の変化に注意して書く。	・筆脈について理解させるとともに、各点画の始筆や終筆部分の形が変化すること、連続線の太さに変化があることを確かめながら書くようにさせる。
3	○ 行書の筆使いを理解して書くことができる。 ・点画の省略や筆順の変化に注意して書く。	・筆脈から、点画の連続や省略、筆順の変化が生じることを確かめさせる。 ・次時までには自分の名前の行書体について調べ、ワークシート（硬筆用）に記入しておくように指示する。
4	○ 行書の学習を生かして書くことができる。 ・自分の名前について、友達が行書で書いたものを観察し、行書の多様な形に気付くとともに、基礎的な書き方についての理解を深める。	・各漢字の字形について、また、どのような特徴を用いて書くことがよいのかについて、グループで話し合わせる。

5	○ 行書の学習を生かして「四字熟語」を書くことができる。 ・自分で選んだ「四字熟語」を書く。	・「四字熟語」の意味を考えながら書かせる。
---	---	-----------------------

○ 授業展開例（4 / 5）

生徒の活動	指導上の留意点	準備物										
1 10人程度のグループを編成し、準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机上の整理と用具の点検をさせる。</li> <li>・正しい姿勢で書こうとしているか確認する。</li> <li>・小筆のため、液体墨を使わず、少量の水で磨墨させることが望ましい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <table style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td style="border-right: 1px dashed black;">○ 行</td><td>○ 楷</td></tr> <tr><td style="border-right: 1px dashed black;">○ 書</td><td>○ 書</td></tr> <tr><td style="border-right: 1px dashed black;">○</td><td>○</td></tr> <tr><td style="border-right: 1px dashed black;">○</td><td>○</td></tr> </table> </div>	○ 行	○ 楷	○ 書	○ 書	○	○	○	○	前時に指示しておいたワークシート（硬筆用）		
○ 行	○ 楷											
○ 書	○ 書											
○	○											
○	○											
2 学習目標を知る。	「行書でサイン会」をしよう！											
3 半紙に自分の名前を行書体で練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート（硬筆用）の点検をする。 ※自分の名前の行書体を探せなかった者については、グループ内で教え合わせる。</li> <li>・中心、大きさ、字間に注意させる。</li> <li>・一字を墨継ぎなしで書かせる。</li> </ul>	半紙										
4 自分のグループのワークシートに名前を清書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑になったり、遅すぎたりしないように注意させ、一斉にワークシート（毛筆用）を交換させる。人数分の回数を交換し、グループの全員が一巡するようにさせる。</li> </ul> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;">半紙を横向きに、12マスに折って使用する。</div> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center; margin: 0 auto;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black;">グループのメンバーが書く欄</td> <td style="border-bottom: 1px dashed black;">サイン会組</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black;">□</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black;">□</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black;">△</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black;">△</td> <td>△</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">自分の名前</div> </div>	グループのメンバーが書く欄	サイン会組	□	□	□	□	△	△	△	△	ワークシート（毛筆用）
グループのメンバーが書く欄	サイン会組											
□	□											
□	□											
△	△											
△	△											
5 グループ内で、相互批評をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の子のよいところを必ず一か所は見付けられるように指示及び支援を行う。</li> </ul>	学習カード										
6 自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の字形や文字の大きさ、配列に注意して書いているか確認させる。</li> </ul>											

7 次時の学習内容を知らる。	・行書体の名前を日常でも必要に応じて使用するよう促す。
----------------	-----------------------------

### ◆第1学年の指導例

#### 1 単元名 「新年の目標を書く」

#### 2 単元の目標

- 字形を整え、配列に注意して、楷書又は行書で新年の目標を書くことができる。

#### 3 単元について

新年を迎え、その年の抱負を書写することは、自分の生活の展望や目標を設定することにより、過去の自分を振り返る機会を与え、前向きに取り組む姿勢をはぐくむことにつながる。そのために、新年や新学年を迎える節目節目には、是非目標を書かせたい。

字形を整えるためには、書体や個々の文字の特徴を理解していることが大切である。半紙に書く場合は、折り目を付けることで文字の大きさや配列を把握しやすいが、絵馬等のような半紙ではないものに書く場合は、文字の大きさや配列といった紙面の構成方法について理解しておく必要がある。この単元では、生徒自身が考えた新年の目標を、短冊や絵馬といった書写材料に、様々な筆記具を用いて書く際のポイントを学習させたい。

#### 4 指導について

- 筆記具の特徴を生かした効果的な書き方を理解させる。
- 様々な形式に合った書き方を理解し、文字の大きさや配列を工夫させる。

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・目的や意図に応じ、構成を考えて書こうとしている。	・字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書いている。 ・漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。

#### 6 単元の学習計画（全1時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	○ 字形を整え、いろいろな形式に合った配列を工夫して書くことができる。 ・「新年の目標」を、文字の大きさや配列に注意して書く。 ・筆記具の特徴を生かして書く。	・学活等で今年の自分の目標を考えさせ、「新年の目標」として下書きをさせておく。

#### ○ 授業展開例

生徒の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	・机上の整理と用具の点検をさせる。 ・正しい姿勢で書こうとしているか確認する。	「目標」の下書き
2 学習目標を知る。	「新年の目標」を書こう！	

3 様々な形式と筆記具の特徴を理解して選択する。	・いろいろな形式と記入例を準備すること。 形式：短冊、絵馬、色紙等 筆記具：筆、フェルトペン、ボールペン等	
4 練習する。	・字間、行間、文字の中心を表す補助線を引いて練習させる。	
5 清書用紙に書く。	・特に、配列、墨量等に注意するように指示する。 ※絵馬に墨で書く際には、濃墨で書くように気を付けさせる。	
6 自己評価をする。	・字形を整え、文字の大きさ、配列に注意して書けているか確認させる。 ・自分が選択した形式や筆記具の特徴を理解して効果的に書くことができたか確認させる。	評価カード
7 次時の学習内容を知る。	・本時のまとめをし、次時の予告をする。	

## ◆第2学年の指導例

### 1 単元名 「自作の短歌を行書で書く」

#### 2 単元の目標

- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書くことができる。
- 自作の短歌を毛筆で書くことを通して、書写に対する関心・意欲を高める。

#### 3 単元について

この単元は、第2学年の国語の短歌の学習で生徒が創作した短歌を、毛筆で清書するという取組である。書写の授業では教科書に掲載されている課題を書くことがほとんどである。今回、自作の短歌を、毛筆を用いて作品にすることによって、自作の短歌に対する愛着を増すだけでなく、書写に対する関心をより一層高めることができると考える。また、清書作品を、校内に掲示することにより、当該学年の生徒の意欲を高めるだけでなく、全校生徒の書写に対する興味付けにもなると考える。

#### 4 指導について

- 短冊に書く場合の書式を理解させる。
- 漢字と仮名の調和、文字の大きさ、配列を工夫することで作品の雰囲気が変わることを理解させる。

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・目的や意図に応じ、構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように書こうとしている。	・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、短歌を書いている。



6 単元の学習計画（全1時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌人の自筆作品の鑑賞を通して、漢字と仮名の調和や、文字の大きさ、配列を工夫することで作品の雰囲気が変わることを理解する。</li> <li>○ 短冊の書式を理解し、文字の大きさ、配列を工夫して書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊の書式を理解し、歌人の作品を参考にして書く。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞して気付いたことを発表させるとともに、自分の作品にどのように生かすのかを考えさせる。</li> </ul>

○ 授業展開例

生徒の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机上の整理と用具の点検をさせる。</li> <li>・正しい姿勢で書こうとしているか確認する。</li> </ul>	
2 本時の目標を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自作の短歌を短冊に書こう。</div>	
3 短冊を書く場合の書式を知る。	<p>&lt;書式&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊の上下 文様の広い方が上、濃淡は濃いほうが上。</li> <li>・各行の行頭の位置 短冊の縦の長さを三等分し、上の句は上から3分の1の場所より1～2字分上から書き始め、下の句は上の句より1字下げて書く。</li> </ul>	
4 半紙に試書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半紙を縦2行に折って書かせる。</li> </ul>	
5 相互批評する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の生徒と、文字の大きさ、配列、漢字と仮名の調和といった点について、試書を相互批評させる。</li> </ul>	
6 短冊に清書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見取りも取り入れながら清書させる。</li> <li>※消しゴムはんこがあれば、短冊に押印させるのもよい。</li> </ul>	短冊
7 成果と感想をワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内に掲示することを告げる。</li> </ul>	ワークシート
8 次時の学習内容を知る。		

## ◆第2学年の指導例

### 1 単元名 書き初め

### 2 単元の目標

- 毛筆書写の学習の成果を生かして、楷書又は行書で書くことができる。

### 3 単元について

書き初めは、正月二日に座右の銘や目標を紙に書くことをいい、日本の伝統文化の一つといえる。新年を祝うめでたい言葉や詩歌、自分の決意などを書くことが多い。

ここでは、これまでに学習した字形の整え方や配列、筆使いといった点に注意して書かせることになるが、特に、新年にふさわしい生气あふれた書き初めとなるように注意を払うとともに、書き初めという日本の伝統文化を継承していることにも気付かせたい。

### 4 指導について

- 自分で考えた言葉や故事成語を選択させて書かせる。
- 1/8画仙紙に書く際の配列に気を付けさせる。
- 書き初めは、毛筆書写を生徒の生活に生かす身近な手段の一つであることを意識する。
- 床上、立位等の姿勢でも書くことができるよう、机等の配置を工夫する。

### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・目的や意図に応じ、構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように書こうとしている。	・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、書き初めを書いている。

### 6 単元の学習計画（全2時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	○ 筆使いや字形の整え方に気を付けて書くことができる。 ・書き初めの意義について理解する。 ・筆使いや字形の整え方に注意して書く。 ・自己批正する。	・1時間目は半紙で練習させるが、1/8画仙紙に4から5文字を書く場合、半紙に2文字ずつ書くと、1字の大きさが、1/8画仙紙に書く場合とほぼ同じ大きさになる。
2	○ 用紙全体に対して、配列よく書くことができる。 ・字形の整え方の要点を確かめる。 ・1/8画仙紙に書く場合の配列を理解する。 ・相互批正する。	・既習事項を応用して書き初めを書くことができたかを、評価カードに記入させる。

### ○ 授業展開例（2/2）

生徒の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	・机上の整理と用具の点検をさせる。 ・正しい姿勢で書こうとしているか確認する。	清書用の1/8画仙紙（1人5枚）
2 本時の目標を知る。	書き初めをしよう！	

<p>3 前時の学習を生かして書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を振り返らせ、筆使い、字形の整え方を確かめさせる。</li> <li>・1/8画仙紙に書く場合の配列を理解させる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>※本文は紙の中央に大きく書き、名前等は左の空いているところを書く。</li> <li>※用紙の上下・左右や字間といった余白に気を付ける。</li> </ul> </li> <li>・書く姿勢については、机上か床上のどちらかを選択させる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>※椅子に座って書くと文字の位置や大きさが分かりにくい場合、立位で書くとよい。</li> </ul> </li> <li>・細かな注意点は多くあるが、新年にふさわしい生気あふれた書き初めとなるよう、最後は思い切って書くように指導する。</li> </ul>	
<p>4 清書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を黒板等に貼り、友達作品や自分の作品についての感想をワークシートに書いたり発表させたりする。</li> </ul>	<p>ワークシート</p>
<p>5 作品を黒板等に掲示して相互評価する。</p>		
<p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習内容を示し、忘れ物のないよう指導する。</li> </ul>	

2 限 目		1 限 目					この言葉を選んだ理由	題材
自分の作品についての感想	くんの作品についての感想等 さん	選んだ文字						
							筆使い	
							字形	
							評価	
		振り返ってみよう（評価欄に◎、○、△で書く）					硬筆で4回書こう	
先生から		仕上がり硬筆 でイメージして みよう。 名前も書こう。					組	
							番氏名	

◆第3学年の指導例

1 単元名 卒業作品

2 単元の目標

- 文字の大きさや調和のさせ方を考え、配列を工夫して書くことができる。
- 身の回りの多様な文字に関心を持ち、表現する意図に則して効果的に文字を書くことができる。

3 単元について

第3学年の指導事項は「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。」となっている。これは、文字及び文字の使用効果に関心をもたせることを意味する。さらに、多様な文字に関心をもたせることで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養い、高等学校芸術科書道との接続に配慮している。

第3学年は、義務教育の最終段階であるので、小学校から習得してきた書写能力を土台として様々な場面で役立つ書写能力を育成しなければならない。そこで、卒業作品の制作を通して、私たちの身の回りで多様な文字が使用されていることに気付かせるとともに、各自が表現しようとする意図に即した効果的な表現方法について学習させたい。

4 指導について

- 新聞や雑誌等から毛筆で書かれた文字を集めさせることを通して、文字の表現方法に関心をもたせる。
- 題材を自分で選択させることで、表現するイメージを具体化しやすくさせる。
- 文字の大きさや形、配列等の工夫を通して、効果的な表現方法を考えさせる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・目的や意図に応じ、構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように書こうとしている。	・身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書いている。

6 単元の学習計画（全3時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	○ 身の回りにある文字に関心をもち。 ・新聞、雑誌、広告紙などから毛筆文字を集める。 ・収集した文字についての情報交換をする。	・収集した文字をワークシートに貼付けし、各文字の特徴を整理させる。 ・OHC等を使用して収集した文字について発表させる。
2	○ 文字の大きさや形、配列に注意して書くことができる。 ・自分が選んだ文字や言葉について、書体を決め、配列に注意して毛筆等で書く。 ・用紙や筆記具を各自で選択する。	・各自の目標に沿った練習用紙を作成させる。 ・筆記具：筆、割り箸、歯ブラシ等 ・用紙：はがき、色紙、短冊、扇面、半紙、1/8画仙紙等
3	○ 卒業作品の完成に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・前時で決定したことに基いて清書する。 ・作品を掲示して相互批評する。	・当初の感興や制作意図を確認した上で清書するように指示をする。

○ 授業展開例（2/3）

生徒の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	・机上の整理と用具の点検をさせる。 ・正しい姿勢で書こうとしているか確認する。	
2 学習目標を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     これまでの学習を生かして、卒業作品を書こう。                 </div>	
3 自分が選んだ文字や言葉を書く。	・筆記具や用紙を各自で選択させることで、卒業作品のイメージを具体化させる。特に、用紙については、大きさや形だけでなく、紙質によって表現効果が大きく異なる点に注意させる。 ・楷書、行書、縦書き、横書きについても各自に選択させる。	筆記具：筆、割り箸、歯ブラシ等 用紙：はがき、色紙、短冊、扇面、半紙、1/8画仙紙等
4 自己批評をする。	・これまでの学習を生かした作品の構想が描けたかを確認させる。	学習カード

5 次時の学習内容を知る。	・次時に清書することを伝える。	
---------------	-----------------	--

作成委員

上野佳男	安堵町立安堵中学校	校長
久森理世	天理市立北中学校	教諭
柳田雅世	橿原市立八木中学校	教諭
谷川貴美代	葛城市立新庄中学校	教諭
殿村孝平	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指導主事

(作成委員の職名等は平成22年度のものである。)